

「学びの教室」

令和6年9月30日
 特別支援教室「学びの教室」
 巡回指導拠点校・通級指導校
 文京区立駒本小学校
 校長 根来 郁明
 文京区立汐見小学校(巡回校)
 校長 山田 晴康

駒本小学校特別支援教室直通電話 3827-5575(ファクシミリ兼用)

通信

一つのことに熱中すること

特別支援教室を利用する子どもたちの中には、「マイブーム」をもっているお子さんがいます。

そのマイブーム自体も多様で、ここしばらくは“クラゲで変わらず”というお子さんがいる一方、入学前は“鉄道”だったけれど最近は“飛行機”、2年生までは“ウルトラマン一筋だったけど”最近では“ポケモンにも興味が出てきた”など、その対象が変わっていくお子さんもいます。

マイブームのように、夢中になれるものや熱中するものがあるということは、良い面がたくさんあります。

- ・電車に乗りに行きたいから〇〇を頑張ろう。(励みにする)
- ・いろいろなモンスターを知りたいな、苦手な片仮名を勉強しよう。
- ・ウルトラマンのYouTubeを検索したいから、ローマ字入力を教えてもらいたい!

このように、自分にとって乗り越えなくてはいけないことがあるときに、夢中になれるものは、グイッと背中を押してくれることがあります。

さて、12月16日(月)の午後に予定している令和6年度第1回保護者学習会では、海獣学者として有名な国立科学博物館の田島木綿子先生をお招きして、「好きなことを極める(仮)」と題した講演会を開催します。好きなことを仕事になさって、多方面で活躍されている田島先生のお話を伺った上で、子どもたちにとって夢中になれることがあるということは、どのような意味があるのか、皆さんで考える機会としたいと思います。

後日、詳しいご案内を配布しますので、ご都合をつけて参加いただけますと幸いです。



<保護者の皆様へ① 2学期個人面談について>

個人面談の日程希望調査票の提出にご協力いただきありがとうございました。当日、都合がつかなくなってしまった場合は、駒本小学校特別支援教室(直通03-3827-5575)までご連絡ください。指導や来客対応で電話に出られないときは、留守番電話に切り替わりますので、メッセージを残してください。

<保護者の皆様へ② 今年度のペアプロについて>

特別支援教室では、ペアレントプログラム(略称:ペアプロ、ペアレントトレーニングの省略でペアトレと称することもあります)の指導者養成研修を終了した職員がおり、本プログラムを毎年実施しています。

あまり聞き慣れない単語かも知れませんが、このペアプロは、お子さんとのより良い関わり方を学びながら、日常の子育ての困りごとを無くしたり減らしたりするとともに、楽しく子育てが進められるように



支援する**保護者向けのプログラム**です。我が国では厚生労働省がその普及を推奨しています。

今年度は、11月下旬から始め、低学年～中学年の保護者の方を中心に3名ほどでグループを組んで、合計7回のプログラムを実施する予定です。後日、配布する案内の文書をご覧になった上で、希望される場合は、お子さんの個別指導担当までお問い合わせください。

10月のコミュニケーションタイムの主な学習予定

「危険な運び屋」

ペアで協力して「危険なもの」を運びます。透明のプラスチックカップに満タンに入った色水（食紅でおどろおどろしい色に染めてあります）をお盆で運んだり、ボールや円筒状のお菓子の空容器を丸棒の上に載せて運んだりします。

主として高学年グループが取り組む予定の色水は、こぼれた量を電子秤で計量し、ビフォー／アフターの差を算出し、真剣な活動を促す工夫が仕掛けられています。身体の各部位の協応を高めるほか、自己の行動を抑制する力を向上することをねらいます。

※学習指導要領「自立活動」関連項目

2. 心理的な安定 3. 人間関係の形成 4. 環境の把握 5. 身体の動き 6. コミュニケーション



「私はだれでしょう」

前に立つ“私”の背中には、小学生がよく知っている動物（哺乳類、鳥類、魚類、昆虫類）カードが付いています。“私”は、フロアの友達や教員に○×で答えられる質問を投げかけ、その質問への解答を参考に、自分が何の動物かを推測して当てる活動です。活動全般を通して、言語の受容と表出に関する能力を高めることやコミュニケーションスキルの向上をねらいます。

なお、ワーキングメモリーや短期記憶に弱さがあるお子さんは、教員が既出の質問とそれに対する○×を電子黒板にメモしたものを参照して活動に臨むこともできます。

※学習指導要領「自立活動」関連項目

2. 心理的な安定 4. 環境の把握 6. コミュニケーション



「パーソナルスリーヒントゲーム」

視覚的・聴覚的・聴覚的の両方を活用するゲームです。短期記憶やワーキングメモリーの向上を図るとともに、「注意」の持続時間を伸ばすトレーニング的な要素を含んでいます。今年度は、新規のカードを導入し、学年やグループの実態に応じて使うカードの種類を変えて取り組みます。

※学習指導要領「自立活動」関連項目

4. 環境の把握 6. コミュニケーション

以上